

(学校番号055) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【大砂土小学校】

4月20日		
目標・策		
①	知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において、全国平均との差を2pt向上させる。 (R4全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均以上を維持する。)
	⇒	基礎的な知識習得のための反復・習熟のための時間を適切に確保する。ドリルワークやスタディ・サプリの活用を通して、家庭学習の充実を図る。児童の学習履歴を、個別最適化指導に役立てる。
	⇒	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において、全国平均との差を2pt向上させる。 (R4全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において全国平均以上を維持する。)
	⇒	学習のまとめやレポートなどをオンラインやムーンノートを生かして記録させ、学習課程を確認するとともに、思考のプロセスを評価と指導の一体化に生かす。表現力の向上を図るため、プレゼンテーションの手順や方法・スキルについて学校で統一して指導する。
	⇒	R4全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上に維持する。
	⇒	授業において、児童にとって必要感のある課題設定をするとともに、解決の見通しをもたせることができるように指導方法を工夫する。また、自力解決や授業の振り返りの時間を確保し、より主体的に学習することができるようにする。

9月20日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
③	知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果と同様に、国語・算数の「知識・技能」において、全国平均を上回る。 (R4全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均以上を維持する。)
	⇒	基礎的な知識習得のための反復・習熟のための時間を適切に確保する。ドリルワークやスタディ・サプリの活用を通して、家庭学習の充実を図る。児童の学習履歴を、個別最適化指導に役立てる。習得した知識を多面的に学習や生活などに生かすことができるように授業改善を図る。
	⇒	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果と同様に、国語・算数の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回る。 (R4全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において全国平均以上を維持する。)
	⇒	学習のまとめやレポートなどをオンラインやムーンノートを生かして記録させ、学習課程を確認するとともに、思考のプロセスを評価と指導の一体化に生かす。表現力の向上を図るため、プレゼンテーションの手順や方法・スキルについて学校で統一して指導する。
	⇒	R4全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上に維持する。
	⇒	授業において、児童にとって必要感のある課題設定をするとともに、解決の見通しをもたせることができるように指導方法を工夫する。また、自力解決や授業の振り返りの時間を確保し、より主体的に学習することができるようにする。

8月26日	
全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>「知識・技能」に関する調査問題の平均正答率は全ての教科において全国平均を大きく上回った。また、算数では、全ての調査問題において、全国平均を上回り、児童は学習内容の「知識・技能」について十分理解している様子が伺える。しかし、国語、理科の「知識・技能」に関する調査問題で、それぞれ1問ずつ、正答率が全国平均を下回った。特に国語では、「知識・技能」に関する調査問題の平均正答率の全国平均との差が縮小傾向にあり、全国平均との差が2ポイント以上向上させることができなかった。基礎的な知識・技能の習得の徹底を図るとともに、観察や実験などを精緻に行うとともに、習得した知識を多面的に学習や生活などに生かすことができるように授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>「思考・判断・表現」に関する調査問題の平均正答率は、全ての教科において全国平均を大きく上回り、また、全ての問題において全国平均を上回った。平成3年度との比較においては、2ポイントの向上を達成することはできなかったものの、国語はほぼ同様の結果、算数は僅かではあるが向上する傾向が見られた。全調査問題における平均無解答率も平成3年度の調査結果と同様に全国平均のほぼ半数程度であり、特に算数においては全国平均正答率の6ポイント下回る難易度の高い調査問題ではあったが、多くの児童は自分の考えをもとに解答を導き出すことができていたことが推察される。引き続き、個別最適化指導の充実を図るとともに、学習の記録を基にして自分の考えを深める学習活動の充実を図っていくようにする必要がある。</p> <p>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたか」の質問に、本校の児童の89.7%が肯定的な回答をした。これは、同じ質問に対する肯定的な回答の全国平均77.3%を大きく上回っている。また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」の質問に、本校児童の86.3%(全国平均65.4%)が肯定的な回答をしている。これまでの取組を継続し、正確な課題把握、課題解決の見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるように授業改善を進めていくことが重要であることが明らかである。さらに、ICT機器などの効果的な活用や個別最適化指導の充実を図ることで、誰一人取り残すことのない学習指導に取り組んでいく必要がある。</p>	

2月28日	
さいたま市学習状況調査結果・分析	
小3	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度さいたま市学習状況調査では、国語で2.2ポイント、算数で5.1ポイント、市の平均を上回った。</li> <li>国語では「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと・聞くこと」で市の平均を3ポイント以上上回ったが、「読むこと」に課題が見られた。</li> <li>算数では全領域で市の平均を3ポイント以上上回ることができた。</li> </ul>
小4	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度さいたま市学習状況調査では、国語で0.7ポイント市の平均を下回り、算数で0.3ポイント市の平均を上回った。</li> <li>国語では「我が国の言語文化に関する事項」で市の平均を3ポイント以上上回ったが「読むこと」で市の平均を3ポイント以上下回った。</li> <li>算数では「図形」「変化と関係」「データの活用」に課題が見られた。</li> </ul>
小5	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度さいたま市学習状況調査では、国語で2.4ポイント、算数で2.1ポイント、社会で2.4ポイント、理科で2.7ポイント市の平均を上回った。</li> <li>国語、社会、理科では全領域で市の平均を上回ることができた。</li> <li>算数では「数と計算」「データの活用」市の平均を上回ったが、「図形」「変化と関係」に課題が見られた。</li> </ul>
小6	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度さいたま市学習状況調査では、国語で3.7ポイント、算数で7.9ポイント、社会で4.3ポイント、理科で3.5ポイント、市の平均を上回った。</li> <li>全教科、全領域で市の平均を上回った。特に、算数、理科では、全領域で市の平均を3ポイント以上上回ることができた。</li> </ul>

3月3日			
成果指標に対する達成状況			
	評価(※)		
⑤	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の結果では、全教科において全国平均を上回ることができた。しかし、全国平均との差が縮小傾向にあり、差を2ポイント以上向上させることができなかった。</li> <li>さいたま市学習状況調査の結果から、「知識・技能」についての学習内容を十分身に付けている児童が多い。しかし、学年による差が大きいことも事実である。</li> </ul>	B
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の結果では、全教科において全国平均を大きく上回り、また、全ての問題において全国平均を上回った。平成3年度との比較においては、国語はほぼ同様の結果、算数は僅かではあるが向上する傾向が見られた。</li> <li>さいたま市学習状況調査の結果から、「知識・技能」についての学習内容を十分身に付けている児童が多い。しかし、学年による差が大きいことも事実である。</li> </ul>	B
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたか」の質問に、全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査ともに89.7%の児童が肯定的な回答をした。</li> <li>「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」の質問に、本校児童の86.3%が肯定的な回答をした。</li> </ul>	B

3月8日		
次年度への課題と改善策		
⑥	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能の習得の徹底を図るとともに、観察や実験・調査などを精緻に行う。</li> <li>習得した知識を多面的に学習や生活などに生かすことができるように授業改善に取り組む。</li> <li>タブレット型端末を活用し、個別最適化した指導や習熟を図る学習の充実に取り組む。</li> </ul>
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット型端末を活用し、個別最適化した指導の充実を図るとともに、学習の記録を基にして自分の考えを深める学習活動の充実を図る。</li> <li>自分の考えを深めたり広げたりすることができる学習活動の充実を図る。</li> <li>児童が思考し表現することが学習活動の中心となるよう授業改善に取り組む。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確な課題把握、課題解決の見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるように授業改善を進める。</li> <li>タブレット型端末の効果的な活用や個別最適化指導の充実を図ることで、誰一人取り残すことのない学習指導に取り組んでいく。</li> <li>学習用アプリケーションの活用を通して家庭学習の充実が図られるように保護者とも連携をして進めていく。</li> </ul>

※評価  
A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)